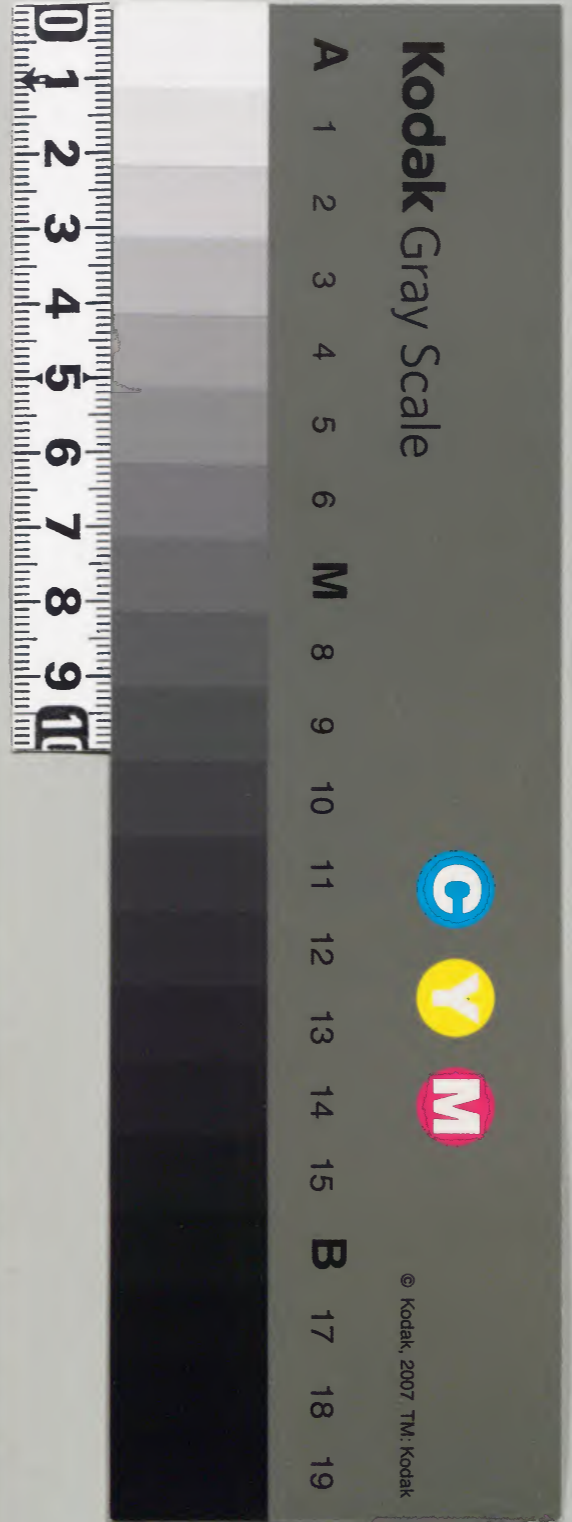


寛永諸家譜

清和源氏乙五母之内  
義家流之内是利流

15

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 ( 15)		
函號	特	76	1





細川 之剛

畠山 上枝

寛永諸家系圖傳

清和源氏

乙二

義家流

足利流

細川

清和天皇七代

義家

八幡太郎

清奥守 孫守 府將軍

淺草文庫

義國 よしくに

式部大輔 しきぶのたすけ

義康 よしかん

足利新判官 あしかしのあらたなごん

義清 よしきよ

矢野判官代 やののあらたなごん

義兼 よしかん

上総介 かみさとのすけ

足利禰 あしかしのね

義實 よしじつ

廣澤判官代 ひろさわのあらたなごん

實國 じつくに

仁木太郎 にきのたろう

仁木禰 にきのね

義季

細川次郎

俊氏

細川八郎

公頼

八郎右郎

頼春

瀨波身

刑部右補

淡田位下

等持院殿寶蓮院殿よけ入て軍

切あり

頼之

右馬頭

武藏守

管領職

康苑院殿の輔佐しり

頼有

右馬頭

掃部助

明徳二年九月卒

勝妙院と号す

頼元

右京大夫

頼之の継子とす

子徳代と管願職とあり

詮春

左近将監子徳代にひて瀧波寺と号す

頼長

刑部大輔

薦福院

持有

刑部少輔

最勝院

教春

刑部大輔

号観院

常有とあり

刑部少輔 播磨守 法名通泰ほうなむつうたい

政有まさあり

刑部少輔

元有もとあり

刑部少輔 善法寺ぜんぽうじ

元常もとつね

播磨守 美松院殿 光源院殿みまのしゅ みのまついん けいげんいん 下しも

頼貞よりさだ

八郎 四郎

顯成あきなり

澁奥守 淡田位下 小侍取しほおくのしゅ たんたのゐした せうじとり

定禪

号持院殿よ次之て軍功あり  
貞和六年二月日卒 勝蘭寺と号

宮内少輔

号持院殿よ次之て志を以て軍功あり  
と号す

繁氏

伊豫守

業氏

淡奥守

歩部大輔

淡田位下

於樹寺と号す

満経

引付頭人

淡奥守

淡田位下

寶泉寺と号す



持經 もちのり

中務大輔 かづのたみ

澁奥守

顯經 あきのり

民部大輔 たみのたみ

上野守 かづのたみ

成經 なるのり

中務大輔 かづのたみ

澁奥守

尚經 しののり

中務大輔

澁奥守

尹經 いののり

中務大輔

澁奥守

淡田守 あまのたみ

坂本名宗と尹澄とありき

晴經 はるのり

之郎四郎 中務大輔

光源俊殿元服の時發そぎの役と

しと

輝經 てるのり

中務大輔

光源俊殿元服の時發そぎの役と

藤孝 ふじのたか

兵部大輔 二位法中下<sup>は</sup>は

判發の坂名と音旨とわくた

進叔と号と

實ハ之淵 任實守入道宗薫子なり

海らと細川刑部少輔元有<sup>は</sup>と養

て子とと

新松原殿光源院殿二代（此より）  
光源院殿（之）好松水邊心（之）生家  
一たまひ時坂孝南都（之）しき  
ひそくに義昭（之）信年（之）比列（之）若列  
越前養濃（之）色（之）つわ（之）藏田信長（之）  
すめ若（之）お（之）こ（之）して（之）二（之）ま（之）び（之）京都（之）  
入事（之）と（之）は（之）く（之）ろ（之）其（之）間（之）坂（之）孝（之）乃（之）夕（之）心  
と（之）は（之）く（之）し（之）と（之）明（之）く（之）と（之）成（之）め（之）ら（之）し（之）て（之）身（之）命（之）  
と（之）す（之）て（之）功（之）勞（之）と（之）し（之）る（之）事（之）を（之）あ（之）げ（之）て（之）か（之）ぞ

ふ（之）る（之）く（之）し（之）と（之）其（之）後（之）藤（之）孝（之）義（之）昭（之）の（之）信（之）長（之）  
う（之）じ（之）ま（之）た（之）ま（之）し（之）る（之）と（之）う（之）ま（之）こ（之）して（之）志（之）を（之）  
い（之）ふ（之）し（之）と（之）し（之）と（之）も（之）り（之）ら（之）ぬ（之）た（之）ま（之）い（之）ふ（之）か  
よ（之）し（之）る（之）信（之）長（之）よ（之）属（之）と  
元龜四年七月藤孝信長の下知と  
う（之）けて（之）城（之）列（之）濱（之）の（之）城（之）と（之）其（之）し（之）城（之）を（之）若（之）成（之）  
主（之）統（之）頭（之）討（之）死（之）し（之）ま（之）した（之）ま（之）し（之）る（之）信（之）長（之）よ（之）  
感（之）状（之）を（之）た（之）ま（之）し（之）る（之）甚（之）貴（之）と（之）して（之）長（之）是（之）初（之）  
桂（之）川（之）よ（之）り（之）ぬ（之）乃（之）地（之）と（之）た（之）ま（之）し（之）る（之）ま（之）し（之）る（之）

て長官と称号して甚状よ云

今度被對信長は拙忠告以謀

計妙しく玉以仍城列の内浪桂川

地之車一藏戸語の全飲知

不<sub>元龜四年</sub>有<sub>元龜四年</sub>お遠<sub>元龜四年</sub>く状如件

七月十日

佐々木中

細川景勝大権取

其後藤孝く<sub>元龜四年</sub>戦切<sub>元龜四年</sub>わ<sub>元龜四年</sub>る<sub>元龜四年</sub>は<sub>元龜四年</sub>信長

より感状とたま<sub>元龜四年</sub>に<sub>元龜四年</sub>戦<sub>元龜四年</sub>之<sub>元龜四年</sub>状<sub>元龜四年</sub>よ<sub>元龜四年</sub>い<sub>元龜四年</sub>し<sub>元龜四年</sub>く

一<sub>元龜四年</sub>乃<sub>元龜四年</sub>朝<sub>元龜四年</sub>片<sub>元龜四年</sub>墨<sub>元龜四年</sub>城<sub>元龜四年</sub>系<sub>元龜四年</sub>符<sub>元龜四年</sub>數<sub>元龜四年</sub>多<sub>元龜四年</sub>首<sub>元龜四年</sub>注

文<sub>元龜四年</sub>動<sub>元龜四年</sub>來<sub>元龜四年</sub>の<sub>元龜四年</sub>符<sub>元龜四年</sub>符<sub>元龜四年</sub>肯<sub>元龜四年</sub>く<sub>元龜四年</sub>候<sub>元龜四年</sub>計<sub>元龜四年</sub>妙<sub>元龜四年</sub>以<sub>元龜四年</sub>計<sub>元龜四年</sub>以

二<sub>元龜四年</sub>抽<sub>元龜四年</sub>戦<sub>元龜四年</sub>切<sub>元龜四年</sub>也

十月之日

佐々木中

長官等大権取

折紙<sub>元龜四年</sub>符<sub>元龜四年</sub>見<sub>元龜四年</sub>以<sub>元龜四年</sub>河<sub>元龜四年</sub>内<sub>元龜四年</sub>之<sub>元龜四年</sub>城<sub>元龜四年</sub>（<sub>元龜四年</sub>吉<sub>元龜四年</sub>晦<sub>元龜四年</sub>）

敵<sub>元龜四年</sub>に<sub>元龜四年</sub>働<sub>元龜四年</sub>以<sub>元龜四年</sub>及<sub>元龜四年</sub>一<sub>元龜四年</sub>戦<sub>元龜四年</sub>首<sub>元龜四年</sub>少<sub>元龜四年</sub>く<sub>元龜四年</sub>討<sub>元龜四年</sub>捕<sub>元龜四年</sub>

之<sub>元龜四年</sub>逃<sub>元龜四年</sub>敷<sub>元龜四年</sub>く<sub>元龜四年</sub>中<sub>元龜四年</sub>尤<sub>元龜四年</sub>人<sub>元龜四年</sub>程<sub>元龜四年</sub>以<sub>元龜四年</sub>全<sub>元龜四年</sub>中<sub>元龜四年</sub>以<sub>元龜四年</sub>計

心<sub>元龜四年</sub>懸<sub>元龜四年</sub>不<sub>元龜四年</sub>疑<sub>元龜四年</sub>以<sub>元龜四年</sub>次<sub>元龜四年</sub>に<sub>元龜四年</sub>表<sub>元龜四年</sub>く<sub>元龜四年</sub>事<sub>元龜四年</sub>端<sub>元龜四年</sub>と<sub>元龜四年</sub>一

撲之指落不崩出入馬追討首  
數多見奉る世傳一取に相究る  
諸陣戸付山系と白て為落居  
物之津田の粗承ると海く初て  
お渡人委細境下戸とては  
八月二日 信長書中

長尾景春大福丸

天正四年大坂中願寺門跡信長さま  
がござし時友春徳大助と申す大坂

とぞうまきひしとを津と書とき  
信長より書とたまはれ甚詞いしく  
為八朝之親故惟二生猶然四  
玉津佳例今祝恙に次自大坂  
各一撲即進付首之は討  
及を急ら衆く申充り御  
下とらぬ之趣書申す申  
初と此走書一と委申福書一  
也地々

七月廿九日

信長書中

長尾景春書

田入年比外難蒙の一揆始起のとき  
藤孝長尾より仰てこそ成らぬ  
の首は位長と致すも感状と  
ましく其詞よ云

昨日長尾合戦と先馳致す人  
討死し首を果たし神妙な精骨  
候無き類は吾人教首致すに宗

感懐少後方頼山入路ゆ也

二月廿三日

信長書中

長尾景春書

吾が萱振飯盛く合戦のとき信長  
より皆感状とたまふも詞よいしく  
今度お萱振と討捕首位又果  
加披見し謀り精骨く候感懐無  
抑ん跡我切も一ふとて地を

九月廿四日

信長書中

長尾常平大捕り

去十月にお坂盛下一揆不討捕首  
津又新米を法に地能く公表り先  
半ゆり不日て打宗の君別下  
家重と孫張之也一白之由之

九月廿二日

信長書下

長尾常平大捕り

同九年豊後香取率とひきめて  
中五(夜向)のとき藤孝因幡伯耆の

境と陣とより戦切あふより信長よ

里感状二通とたよふ

折紙并松井浪を状か披戸ん  
北伯列面深くお物泊城押入敷  
討名く忠と敵火敵船六十六艘切  
採く由尤も本法敷く物神妙なる  
打入く刻自大崎城居おん  
追崩皮山下焼掃人肯喜以感  
之漢人能くお勇孫抽粉骨作

てし中 中より 考一 是

九月十六日

信長 孝 孝

長 孝 孝 孝 孝

松井昌介加 祝勅十郎 喜る 雲  
伯境 日 勅 勅 勅 勅 勅 勅 勅 勅  
右 者 廿 八 人 討 捕 虜 不 久 注 文 并  
羽 柴 友 吉 郎 打 紙 動 來 披 刀 元  
以 無 以 難 難 骨 汗 感 憤 疾 人 人  
若 其 忠 意 之 旨 能 之 言 也 之 也

九月廿四日

信長 孝 孝

長 孝 孝 孝 孝

其 後 藤 孝 孝 孝 孝 孝 孝

東 照 大 権 現 之 相 湯 之 法 藝 之 大 了

之 之 道 之 長 之 難 事 多 一

之 長 十 八 年 八 月 廿 日 城 列 少 之 率

年 七 十 七

藤 英

之 淵 大 和 守

藤 孝 先 一 名 顯 家





利隆の後宗立と稱し之母と号  
實ハ若部大楠藤存子なり

永祿年中光源院殿の命より  
中務大楠輝経養子となり其家と

つぎを役とつとめて大外膳亮となり  
天正八年信長より母後國と大まより  
長長入年

大指現より母後とありたぬ其前國并  
是後の内二郡と相領と是為年忠

減とけり又八國が原合戦の時軍功と  
いげまことかゆなり

真元

頼小郎 主番以 従六位下

長長十入年

大指現より出され下野國よりあて長本庄  
一百石之地とたまふ

同十九年大坂津陣の役年と

元和元年大坂津陣津佐に軍

切りしより加増として常列首の

内より六千石増領と

同四年二月十八日死去歳六十七

法名粹英

妙菴

豊前國におわて死去

孝之

女子

中務少輔 別巻の段体母宗也と号と

吉田右兵衛尉卜部 道治が妻

女子

木下右衛門大史 延俊妻 病死

女子

長谷川伊賀守妻

女子

長尾与九郎妻

与九郎ハ中流中洲之通播川の子ナリ  
忠貞より長尾氏と云々

貞昌

玄壽頭

従六位下

元和四年貞元を跡と一命を承け

忠利

内記越中守

忠貞之男家督と云

母ハ明和日向守光秀女ナリ長元年

大坂よおめて石田治戸少輔之成がためし

自害と云は忠貞

大権現よまろびひそまつて関東よお

ゆしけが敵なり

長十年四月没入佐々木一信

任じと

寛永二年八月後位に叙し左衛門少将  
に任じ

同九年

將軍家より昔前とありて大あてに後國と  
なよりりもか又昔後の内にて次第と相成と

おし忠利

大権現

台酒院殿

將軍家へ流しこりてまづ勅号とこらるる

ふゆ三むく清原忠よわづら

同十八年三月十七日服後國して率と

兼平六法名宗他道号其前雲妙解院と

号と

忠隆

子一郎判發の後休と号と忠利兄母

忠利よ同

某

長男子二郎 忠利兄 母忠利よ同

元和元年京都にて死

立孝

中務大輔

眞孝

刑部少輔

女子

お望生雲守喜

母八忠利八同ト

女子

福榮民部少輔喜

母同同ア

女子

長尾佐渡守喜

女子

烏丸中納言友原光賢光賢の室

光尚

肥後守

母小笠原兵部大輔秀政女秀政之郎

位康康主主の外外孫孫女女なり

寛永十二年七月後四位ノ叙一ノ後

ノ後

同十八年八月忠利是跡と持領と

男子二人

女子二人

家の故二川あり九曜

● 集

三淵

伴賀守 生國之野足利  
万松院義晴より

顕家

大和守



光源院義輝のちりとなりてけしん坊家  
其後任長の命よふりて坂本の城よ  
おろて身寄と 法名宗光

先行

伯耆守

二輩の時父顯家よえられ細川普部左衛門  
藤孝よ養育せし藤孝八顯家ノ弟  
なりぬ輩の時

大権現と稱しきてしん坊

享長六年閏原涉陣よ修善と

同九年六月二十二日没後下ノ叙

伯耆守よ修善

同十四年十月知行千石とたまひ給

大権現薨御のむら

台漣殿よけしん坊

元和九年九月十六日病死時よぬしん坊

法名宗心

藤利ふじり

繼殿助ついでんすけ

安永十七年十一月十二日發利九筆にて

大指現と稱してたてまつりておぼしめ

御前ごまへ候ごうと

大指現おほさしげん費ぎ御ごの後のち

白しろ酒しゅ院いん殿でん費ぎ御ごの後のち

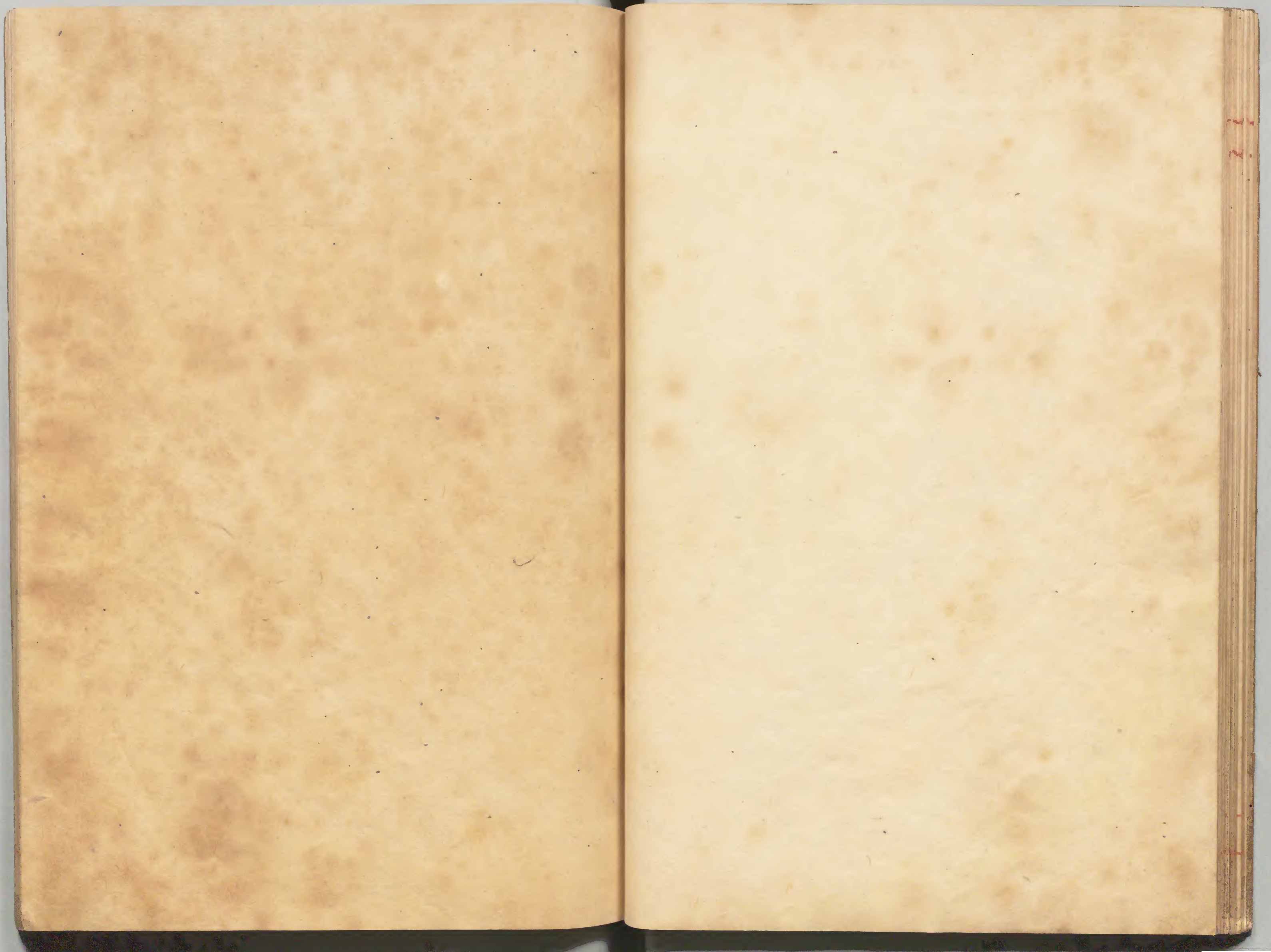
白しろ酒しゅ院いん殿でん費ぎ御ごの後のち

將軍家より承りておぼしめ

寛永八年九月御書院番とつとめ

のら御小姓ごせう繼ついでんより承りて御番とつとめ

家紋いえもん桐きり葉は二に引ひ



昌山

義家よし之の氏うぢ

● 義康よし

足利あし新しん判はん官くわん

義兼よし

通とほ入い位い下げ

上かみ總そう舟ふね

義氏よしかた

正四位下ただしよんゐげ

足利右馬頭あしかがみまがしら

義純よしくん

畠山光祖はたけやまのあきむね

正六位下ただしむゐげ

遠江守とほづのりやう

恭國あやむくに

上野前司之節うづののまへしよのふし

國氏くにうぢ

正六位下ただしむゐげ

河内守かはりのりやう

一統ノ時國いつとうのときくに

貞國さだくに

正六位下ただしむゐげ

民部丞たみべのちやう

家國いへくに

正六位下ただしむゐげ

尾張守おわりのりやう

國清 くわんせい

修理大進 しゆりのたしん

河波寺 かはのてら

道誓 だうせい

義深 ぎしん

尾張寺 おりのてら

増福寺 まふくのてら

基國 きくに

右邊門佐 みぎのへもんさ

長祿寺 ながろくじ

法名 法元 ほつな ほつげん

満家 まんけ

尾張寺 おりのてら

真観寺 まんのくわんじ

法名 道端 ほつな どうたん

満則 まんすく

修理大進 しゆりのたしん

又満度 またまんた

長門寺 ながののてら

義立先祀 ぎたてせんじ

持國 ちくに

儀之位右衛門佐 後左邊門佐と号す

持富 光孝寺 法名 酒本

尾法寺 妙音寺

政長

左衛門督 尾法寺

実澄寺 實持富子

長祿寛正のころ政長義就家と相  
福一合我よおよせいとと政長

ら初ら管飲職とけ

家傳よいよく漢之位よ叙と

義就

右衛門佐 伴彥寺 宝泉寺

尚長

漢下 左衛門佐 尾法寺始ハ尚長

勝仙院 法名 新源 德陽 卜山と号と

植長 たねなが

右清門佐 尾法寺

大和寺 だいわじ

法名 覺源悟公 かくげんご

改國 かいくに

播磨守 尾法寺

後學院 ごがくいん

法名 教國宗貞 きょうこくそうてい

高政 たかまさ

尾法寺 多摩寺 法名 高政 たかまさ

少号 せうごう

政尚 まさたか

播磨守 融岩院 始ハ政義 はつしやう

法名 一風雲松 いつふううんそう

昭高 あきたか

左衛門督 釈迦寺 始ハ政頼 はつしやう

法名 高源道者 たかげんどうしやう

先祖生國上列のよとひつゝ高政 たかまさ



將軍在洛の<sup>後</sup>も<sup>代</sup>河列<sup>高</sup>在  
乃城<sup>主</sup>一<sup>一</sup>  
天正二年<sup>信長</sup>のとき<sup>家</sup>是<sup>世</sup>河内<sup>守</sup>  
謀叛<sup>し</sup>より<sup>昭</sup>言<sup>と</sup>う<sup>終</sup>り<sup>し</sup>  
畠山<sup>家</sup>没落<sup>と</sup>

貞政

左衛門<sup>佐</sup> 國<sup>實</sup>院 法<sup>名</sup> 美<sup>山</sup>主<sup>心</sup>

政信

民部<sup>大</sup>輔 生<sup>烟</sup> 紀<sup>列</sup>  
元和元年七月

大<sup>権</sup>現

白<sup>河</sup>院<sup>殿</sup>と<sup>存</sup>し<sup>て</sup>ま<sup>り</sup>た

同八年八月

將軍<sup>家</sup>と<sup>祥</sup>と

寛永元年十月<sup>よ</sup>も<sup>江</sup>戸<sup>よ</sup>り<sup>て</sup>

清奉云とつとむ

象の紋柄 幕の紋二川ある幅白

留山

義純七代

● 基園

石清門塔

満家○

民部少輔政信社

滿則みんね

修理大吏しゆりのだいし

勝禪寺かつぜんじと号ごうと

義忠ぎちゆう

修理大吏

北清寺きたしみずじと号ごうと

義忠

修理大吏

宗榮寺そうえいじと号ごうと

政國せいこく

修理大吏

大念寺だいにんじと号ごうと

義統ぎとう

修理大吏

弘林院こうりんいんと号ごうと

義則ぎねき

修理大吏

義隆

修理寺

勝安寺と号す

義春

民部少輔 入彦 生國能列 畠山

義長十二年京虎峯子と号す京勝

姉摩の海と号す(と)叔と称号とす

永祿三年京虎岡東へ入ると野の

内和四乃城晴佐よりまゆれよつき

京虎と号すこれとせし京時京虎自

身姓と号す(と)越後の侍とす

一命とす我れとす(と)せと南義長

海とのを教度の軍切にまきわら石の

和四の城といふ今乃高橋のよりなり

佐列の佐人村と義清佐列坂本の子城

と晴佐みとす(と)京虎とたの(と)本と

乃事との(と)しよつきこの度ハ京虎晴佐

と是非の合戦とさぐぬき覚悟とて  
同四年九月十日信州川中嶋におわて  
合戦乃時京虎先手八幡寺和泉守敏友  
下野守長尾越前守左右二子とさぐり  
りふ京虎旗本とつと入らざる京虎  
晴信の旗本とさぐりつとつと晴信旗本  
敗軍一着部川へひきまうぞく一和と  
京虎川中へ京虎み晴信と二太刀さる  
其時京虎義長河村と敵陣へけ入て

太刀うらさる名わりを介義とて敵へ先叢  
出雲守河村十郎義とわをさる名わり  
そのの旗侍義とわをさる名わりと  
わさるなり又討死するもれとこれ京一  
京虎信州普光寺と陣とらる京取山よ  
て首實檢一飯山お入目陣とらる  
て晴信の使とさる一合戦すまの  
いひつらる川中嶋の合戦とつて京  
の事とさるといふも奥よ是とさる

る

同十一年越後系虎遊人本と越前守  
重長といふの逆心と企てて本との城より  
越城と系虎出るの時義忠先手となり  
敵味方川と隔て對陣の所より義忠長川  
中へ急こむと見えて毛藁与十郎おるばり  
家人皆川中へ入て敵を討度の際  
とありせしむ人我の重長とて一とて敗軍  
すといふは川とて義忠を討て敵之人

とら首の郎重長と義忠  
たひよれりじくと義忠より一も方ひき  
ありや

元龜元年武列のうら波西の城と系虎  
お田のわのうよ貴おとすけ時系虎自身  
法とてしるしとて越城の法とてしる  
いふことしるんでたのよより越城におよ  
義忠手廻とていけて戸なりと一番より  
られがふ義忠が家人毛藁出雲守同

与十郎其が士率進とわを落城の  
町のころどおてきつりうと城を八波西と  
つふりのなり

越中の小出の城より庄助又即地より

とつてひわんせてきてこの城より

義長の家虎の下かとうけと塔とありて

せめおとひ

同と年能列七尾の城を富山義隆十

八輩とて病死して能列は國をこれが

きゆ義隆が家長長對馬守の九郎左衛門尉

延佐義作守の彈正左衛門温井備中守

と物頭として其外の家長數十人心と

として義隆と家虎とまこと同て天正

二年八月二日七尾より九月十一日

よせめおと守其時義長軍切り家ゆ

家虎家義として能列ハ元來義長

本國に於てより不意にすまのより

義長譜代のころころひと千宗将と義長



よ属せしむるに下よ京虎いふおのひ  
らん義春と八郎中おのちゆうの境目荒山の附城よ  
こしをき七尾ななおハ左坂越中守河清介  
村田与十郎むらた吉田監物長次信濃守其  
外侍とをあもつてこしとく七尾の  
落城せし事ハ遊佐美作守味とあり  
長對馬守河九郎左清門号の侍大将十  
一人討死せしありけし時信長より  
加勢とて柴田修理太夫羽柴筑前守

前田又左清門依り内蔵物金森八郎ハ  
加判右烟府塚まで教何ととて七尾  
すてお落城せしれよりとて河清と  
天正六年之月十日京虎病死と京侍  
小糸之郎と公我よ及て京勝ハ春日山よ  
陣とて小糸之郎ハ春日山とて事  
六七町とて沙館小陣とて敵味方毎日  
いふに戦ふより毎年なり義長は  
わが計策とて自ら身教度の

軍切と遊一法年と下知と京務長日  
山のじふは毫宕山小巻子と置而一  
之郎先とせめとられ一義長春日山  
一と是とまて早迷交つけ其日よ  
毫宕山とらむとと郎が士年おが  
くうらに於てお京勝とと郎合戦の  
わの義長とらむとらむの場取おが  
と一ととわけておがらるる守  
同七年教度の合戦よ小条之郎うら

まけ其と小条丹後守うら死すらゆ  
之郎越後の内務尾の城へひきまらゆ  
く和と義長お一とせ之郎切腹と其  
時園楽の上校憲政と切腹せしゆ  
京勝うまより運とひらく

同十年越中の松倉と小津のあゆ  
京勝教后河内豊前守守備六義長  
小之郎安部右衛門竹俣之河守中条  
越前守石川宗女吉田長田郎沼押部

若林九郎左衛門山平寺勝義（山平）兼（兼）大將（大將）  
右（右）の（の）両河（両河）と（と）より（より）ふ（ふ）と（と）い（い）は（は）信長（信長）  
より（より）松倉小津（松倉小津）と（と）近路（近路）のため（ため）は（は）往（往）く（く）内務物（内務物）  
佐久（佐久）乃（乃）主（主）善（善）酒（酒）山（山）の（の）昔（昔）清（清）柴（柴）田（田）修（修）理（理）其（其）外（外）  
物頭（物頭）数（数）十（十）人（人）こ（こ）し（し）こ（こ）ら（ら）よ（よ）つ（つ）わ（わ）て（て）京（京）宿（宿）越（越）中（中）  
へ（へ）出（出）る（る）と（と）又（又）信（信）濃（濃）の（の）より（より）八（八）森（森）勝（勝）義（義）大（大）將（將）と  
し（し）て（て）越（越）後（後）二（二）本（本）も（も）ど（ど）教（教）向（向）と（と）義（義）長（長）二（二）本（本）  
の（の）と（と）ふ（ふ）と（と）して（して）これ（これ）わ（わ）り（り）と（と）い（い）は（は）も（も）之（之）方（方）路（路）ハ  
大軍（大軍）なり（なり）義（義）長（長）も（も）方（方）路（路）ハ（ハ）す（す）く（く）や（や）ま（ま）き（き）よ（よ）り（り）

義長（義長）て（て）き（き）ま（ま）く（く）と（と）の（の）り（り）て（て）み（み）る（る）の（の）路（路）と（と）大  
軍（大軍）の（の）祈（祈）み（み）見（見）せ（せ）ら（ら）れ（れ）ど（ど）と（と）方（方）路（路）信（信）列（列）へ（へ）ひ（ひ）  
き（き）と（と）於（於）聖（聖）日（日）信（信）長（長）他（他）界（界）の（の）より（より）若（若）林（林）乃（乃）  
より（より）と（と）方（方）路（路）い（い）ふ（ふ）く（く）信（信）列（列）へ（へ）ひ（ひ）ま（ま）き（き）と（と）於（於）  
同（同）十（十）一（一）年（年）十（十）月（月）十（十）五（五）日（日）京（京）勝（勝）家（家）信（信）柴（柴）田（田）因（因）幡（幡）書（書）  
か（か）ら（ら）び（び）よ（よ）道（道）吾（吾）舟（舟）逆（逆）心（心）と（と）お（お）こ（こ）し（し）て（て）越（越）後（後）  
乃（乃）柴（柴）田（田）と（と）乃（乃）若（若）林（林）の（の）あ（あ）か（か）ら（ら）よ（よ）り（り）と（と）こ（こ）ら（ら）に（に）  
是（是）と（と）近（近）路（路）せん（せん）ため（ため）京（京）勝（勝）出（出）る（る）せ（せ）り（り）や（や）ま（ま）り（り）  
先（先）存（存）乃（乃）軍（軍）勢（勢）と（と）橋（橋）も（も）よ（よ）り（り）取（取）軍（軍）せ（せ）り（り）よ（よ）

より因幡を獲よ案て京勝が旗本へ打  
てかきりすてよわやうかりしをよ義を  
京勝旗本の前ぞあしめわり京勝日の  
丸の旗とさうと十間がどきまき入し  
出し義をよまよりうの士率どま  
るよりめりしと獲と勝のとみ宝芝居  
よめり志めて備とさしにより因幡を  
るよかりしとひまきうぞくさるよとわ  
とよまきひてよひし京勝自身る

とめて敵と二騎つまおとし首と即注  
よらうと京勝先手五後と追らう  
てみ十君野の城下までいり

同十二年八月十八日京勝柴田因幡を  
道号舟等と退治のため出ると並に  
山城守先手とうけしむるといしとを  
敗軍せしふより義を二のせり  
わうてとさうとまきしと旗とをた  
て横合よ入くづし八幡まきとら

八幡といふ所ハ佐々木川の筋ありあり  
み十君姫の城とさうりみ六所なり  
同年京橋信列河申崎と義長よわ  
くして貝津の浜小居せし其しり  
信列善光寺櫻井新のあ所しり  
京橋よ腐せしと義長これとせめて款  
と生挿其外数人しりきて義長右  
のあ所と依と

同十二年信列の位人紹田左邊門と

いハ信列福海あり美田安房守幸昌  
京橋よ款対すれあり紹田美田とい  
とわらせて逆んといハたつ先とま  
京橋より使とたて春日山へ何作と  
きのり紹田よはらるといハと病と  
称して来ると是より京橋義長よ  
命して紹田とらるとすづきのしり  
はぐ義長紹田うづらひと見廻と称  
して福海ありしりきて紹田と

と謝せんため人数七百引くして川中橋  
へ素向せしと義長先となりしとて  
細田とくらしとて其後共二百餘討  
捕其後急務し義長不和なりて去る  
り属と

享長八年関ヶ原陣の時

東照大権現よとてごみきとてまう河列  
能列の畠山氏裏微みより 物命と  
かゆゆとて本氏よりりて畠山の

地伏職とされし時妻子と人賞  
大坂いこうあり

大権現先ときよりされて者大坂へ  
つふるまありしとて下とよりあり  
この事いふ者もことお後しるや  
義長ゆけつは今更やんがせらるん  
や故人賞はけさより出とよわらじと  
まば大坂へゆとてとて妻子先と  
らむとてゆとて妻子とすてをま

右と申してつゆよつとぞ  
右のよきぶるいとみけまはる

義真

長門守 生國歌後 母ハ京掃が婦

京勝の養子とありて合津よわ

長六年一とあり

大権現と稱錫と

同十七年同十月十日没み位下と殿と

元和二年七月駿府より江戸より来り

右酒院殿

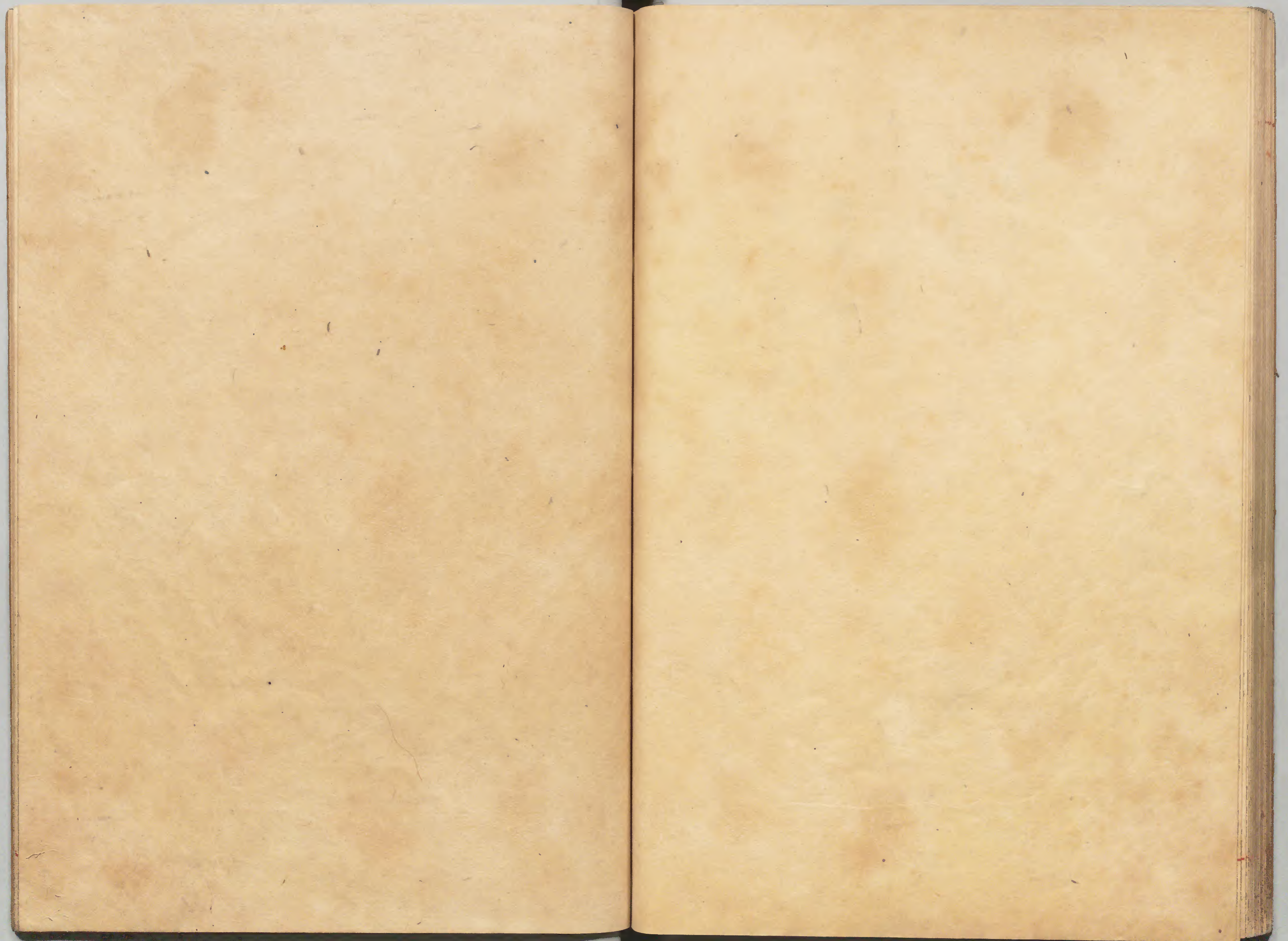
將軍家より江戸より来り

基昌

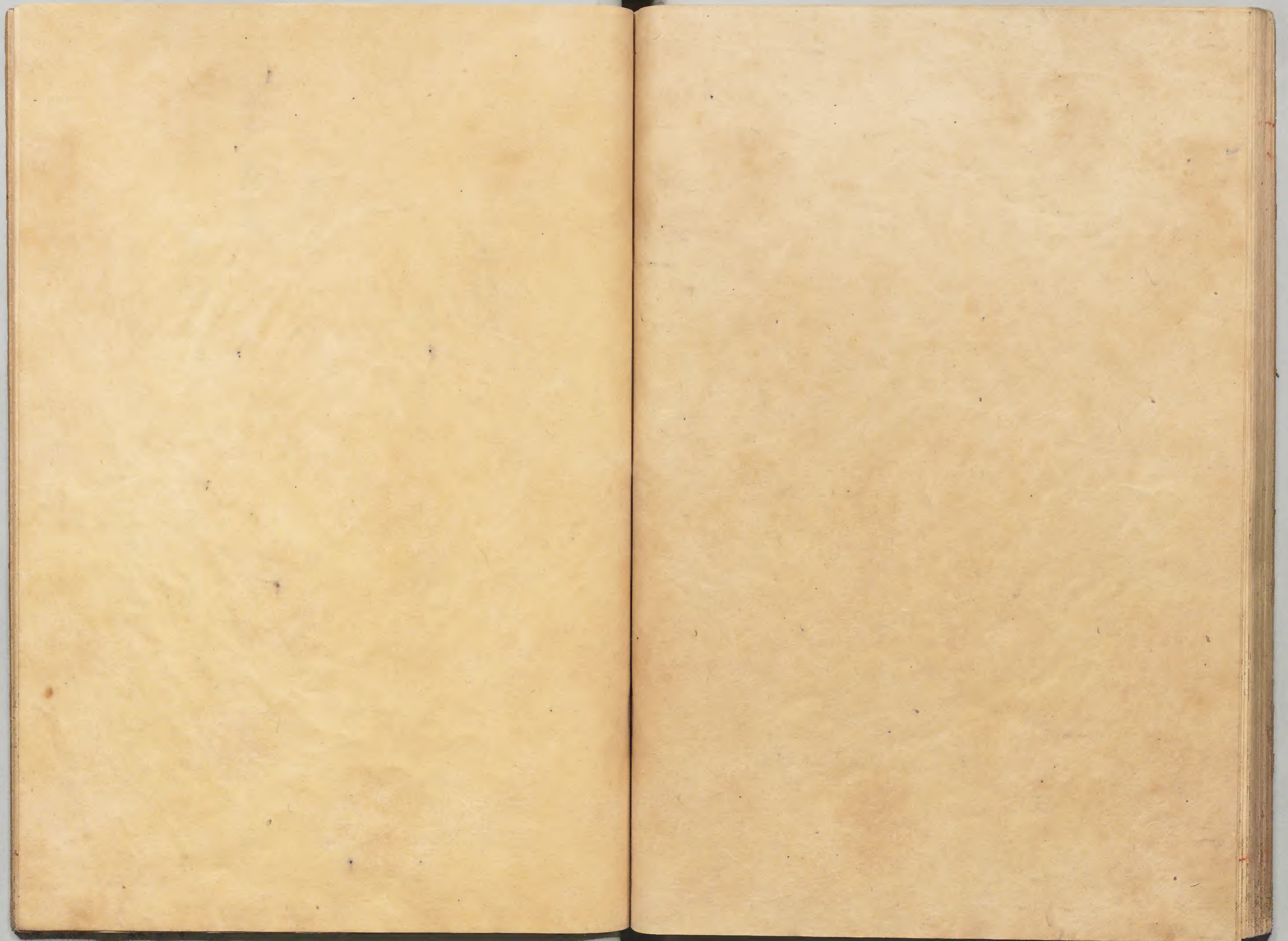
左近大吏

家紋桐

幕紋之幅白







留山満則六代

義長

上校

姓の出るより留山一宗

民部少輔

法名入唐

事ハ留山長門守ガ系圖一ツまび

りなり

長貞ながさね

源四郎

生國歌後

上校系勝かみの属まがと父義長ちちのりを以て八島山と

称号なづかと上校通信かみが養子やしとなれし

志こころらくと上校と称なづかととてそのら

留山氏るりやまより分わかれしと長貞ハ通信かみ

より一ひとみありゆへにとて後のちより

長貞六年十一月

東照大権現と相あひま

同九年

大権現の命のみことにより

右徳院殿より所ところなり

元和九年死し

義真よしまこと

畠山長門守

系圖別けいずより出い

長政 ながまさ

万吉 まんきち

早世 はやせい

長貞 ながさだ

官内少輔 くわんのすけ

先長政父の造法とほぐとひぐと早世  
少寛永八年長貞父の造法とほぐ

家紋 いえもん

幕政竹丸 まくまさたけまる

